巻頭言

全カリの森の深さと広さを知る

全学共通カリキュラム運営センター総合系科目構想・運営チームメンバー／社会学部教授　砂川 浩慶

分け入っても分け入っても、その深さと広さを知るばかり。1年間、全学共通カリキュラム運営センター（全カリ）の総合系科目構想・運営チームミーティングに出席した感想である。正直にいえば、今まで全カリといえば自学部の責任コマをどう埋めるかばかりに関心がいき、全体をみる余裕がなかった。それが約2週に1度のミーティングを通じ、全カリの理念、実践、課題などさまざまな事象を知ることで、ごく一部しか見ない狭く平面的でしかなかったものが、広く立体的に見えるようになった。

それを実感したのが、私が司会を担当した2018年2月16日に開催された「2018年度第1回全学共通科目総合系科目担当者連絡会」であった。入試直後の金曜日の夜の開催にも関わらず、多くの学内関係者にお集まりいただき、盛況であった。「2018年度」と先取りしたネーミングは2018年度から新任担当となる先生方を主たる層と考えているためである。

佐々木一也全カリ部長の挨拶に続き、授業の実践例として「人権思想の根源」をご担当いただいた兼任講師の岩川ありさ先生からご説明をいただいた。岩川先生はこの授業において、2017年度から始まった立教大学教育活動特別賞を受賞された。この賞は「学生による授業評価アンケート」で授業満足が高かった科目をもとに選定されたもの。授業の概要や授業運営で工夫していること、課題、教える量をどうすればよいのか、などに分けてテンポ良くお話いただいた。視覚教材の活用、コメントペーパーへの対応など、さすがと思わせる内容で私自身も大変勉強になった。

その後、松山伸一総合系科目構想・運営チームリーダーによる「総合系科目」の特色と教務上の留意事項の説明、中島俊克全カリ副部長による「全学共通科目担当者の悩み」をテーマとする講話へと続いた。特にこの3月で本学を退職される中島先生のお話は、長年全カリを担当した経験から話せる“裏技”のオンパレードで会場は笑いに包まれた。最後の質疑応答の際には、「しょうがい」への大学としての対応、新座キャンパスの設備改善など多くのご指摘・ご意見をいただき、大変有益な連絡会となった。従来から大幅に増えた参加者数は事務方の皆さんの声かけの努力の結果と伺った。

2016年度からの新カリキュラム「RIKKYO Learning Style」では、学年進行にあわせ「導入期」（1年次春学期）、「形成期」（1年次秋学期～2年次秋学期）、「完成期」（3年次春学期～4年次秋学期）の3つの期間に分けている。全カリ（2016年度以降は「全学共通科目」）では、「学びの精神」「多彩な学び」「スポーツ実習」の3つの科目群に分け、2017年度は700を超える科目が具体化し、一つ一つは独立した科目であるが、それが連なり山脈の様相を呈している。全カリは専任教員・兼任講師を問わず、多くの先生方、事務局の気配り目配りによって成立しており、これを支えるためには、活発な意見交換、絶えざるカリキュラム検討が必要となる。

深さと広さを合わせ持つ全カリがより豊かな山脈となるように、自分なりに尽力していきたいと思った1年間の経験であった。

すなかわ　ひろよし